

「あまおう」王座守る



出荷のピークを迎えているイチゴ。全国各地で生産されており、近年は新商品の投入も多い。今回は主要な27品種(ブランド)を対象に調査し、15位までを掲載。「あまおう」がブランド力やつぶの大きさなどで他を圧倒し、昨年を引き続き首位となった。昨年と比べて総合評価が10ポイント以上増えた品種も多く、今後は勢力図も変わっていきそうだ。

「あまおう」は味やブランド力で人気
(東京都港区のいなげや白金台店)

ブランド

ブランド採点表	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
は項目でトップを示す ()内は産地または原産地	あまおう(福岡)	紅ほっぺ(静岡他)	さがほのか(佐賀)	とちおとめ(栃木)	さちのか(長崎他)	章姫(あきひめ)(静岡)	ひのしずく(熊本)	ゆめのか(愛知)	スカイベリー(栃木)	さめぎ姫(香川)	やよいひめ(群馬)	さらび香(静岡)	かおり野(三重)	アイベリー(愛知)	とよのか(福岡他)
総合評価	534	384	348	345	324	265	255	248	231	194	194	184	168	159	157
味(甘さ)	58	40	28	36	36	24	29	26	23	19	16	15	20	8	14
鮮度	22	29	22	22	20	20	14	16	9	10	9	13	7	6	6
色・つや	44	38	23	28	28	19	19	19	23	16	10	18	9	16	7
値ごろ感	3	29	38	34	27	21	7	12	3	6	8	2	13	3	12
供給の安定度	28	28	36	35	26	15	7	10	3	5	3	3	6	1	9
つぶの大きさ	70	44	18	17	14	18	27	16	29	9	14	14	7	23	7
ブランド力	82	29	24	41	16	11	16	7	26	7	4	7	3	10	7
認知度	72	39	41	44	28	21	7	9	6	3	5	3	2	4	14
安全性への信頼性	24	12	15	15	9	7	8	5	7	7	5	5	3	2	7
利益率	10	9	16	12	11	6	4	5	4	3	4	2	3	2	4
口当たり・食感	19	26	15	18	14	14	12	16	10	9	7	13	9	7	7
産地のイメージ	40	21	23	29	14	13	13	9	15	6	5	12	5	5	7
包装・パッケージ	18	11	11	5	1	5	8	2	9	5	3	8	2	2	1
広告・宣伝やキャンペーンなどのマーケティング戦略	30	5	11	11	5	1	4	2	10	2	3	5	1	1	1
希少性の高さ(入手困難性)	2	1	0	1	0	1	3	2	16	5	3	11	3	5	3
生産履歴などの情報開示	10	4	4	3	3	3	3	1	2	1	1	5	1	1	1
栽培方法(減農薬等)	1	3	0	1	1	2	1	0	1	0	1	1	1	1	0
自治体や地元のサポート	10	5	3	7	2	6	6	2	5	2	3	4	2	1	1

イチゴ

出荷のピークを迎えているイチゴ。全国各地で生産されており、近年は新商品の投入も多い。今回は主要な27品種(ブランド)を対象に調査し、15位までを掲載。「あまおう」がブランド力やつぶの大きさなどで他を圧倒し、昨年を引き続き首位となった。昨年と比べて総合評価が10ポイント以上増えた品種も多く、今後は勢力図も変わっていきそうだ。

新興品種の伸び鮮明

ブランド別総合評価では首位の福岡県産「あまおう」が534点と、2位の静岡産他「紅ほっぺ」に150点の差をつけた。「ブランド力」(82%)や「味(甘さ)」(58%)など全18項目中11項目でトップだった。

バイヤー調査

目でも首位に君臨する。の、「色・つや」(38%)、2位の「紅ほっぺ」は6ポイント下がった。果実の中で赤いのが特徴。その人気の高さが、静岡産「さがほのか」だ。静岡産だけでなく、香りが強く、「値ごろ感」(38%)や「認知度」(41%)などでも評価が高かった。昨年の上位5位に比べて、今年上位5位の順位は大幅に伸びた。6位の静岡産「章姫」(あきひめ)は「値ごろ感」(21%)で高評価を得て総合評価は17ポイント増えた。8位の愛知県産「ゆめのか」は「味(甘さ)」(26%)などで評価を伸ばし、総合で43ポイント増えた。

表には掲載していないが、「3年後のトップブランド」(33%)の項目で1位増加したものは、5位には長崎県産「さちのか」が入った。

9位の栃木県産の「スカイベリー」は昨年より16ポイント増え、「希少性の高さ(入手困難性)」(16%)で首位。今年は洋菓子店との共同イベントなどで知名度を上げていたが、「年間を通して安定的に供給してほしい」という声が多い。味や出荷量、価格が天候や季節に左右されやすく「販売計画を立てにくい」という指摘があった。「価格競争に陥らないように希少性の高いイチゴを仕入れた」という意見も目立つ。

「味(甘さ)」を重視 80%

仕入れ基準

イチゴの仕入れを決める判断基準で、最も多く「味(甘さ)」が重視されると答えたのが「味(甘さ)」(80%)だった。総合評価で1位の「あまおう」は同項目で2位の「紅ほっぺ」を18ポイント引き離している。3位には「色・つや」(60%)がつけられた。買っるときに消費者が判断基準にしやすい味と並んで支持されているイチゴの味は決め手となりやす特徴だ。

【調査の方法】

調査は2月20日から3月16日に、FAXで実施。百貨店、スーパーでいちごの仕入れを担当しているバイヤー250人を対象とし、153人(回収率61.2%)から回答を得た。27品種について5点満点で総合評価をしてもらい、その合計得点で上位15品種のランキングを作成。採点項目の数字は、品種を評価できる割合(%)を表す。▼今回の調査結果や生鮮ブランドに関する調査の問い合わせは日経リサーチメディア総合調査部(03・5296・5198)まで。